

審 議 会 等 会 議 録

○平成 2 8 年度第 1 回久喜市総合教育会議

発言者	会議のてん末・概要
1 開 会	
司会（関口企画政策課長）	<p>大変お待たせいたしました。定刻になりましたので、ただいまから平成 28 年度の第 1 回久喜市総合教育会議を開会させていただきます。</p> <p>本日は平成 28 年度の最初の会議となります。4 月 1 日付の人事異動におきまして、事務局職員の異動がございましたので、初めに紹介をさせていただきたいと思います。</p> <p>まず、総務部の職員でございますが、増田総務部長でございます。</p>
増田総務部長	<p>皆さん、こんにちは。増田でございます。どうぞよろしく申し上げます。</p>
司会（関口企画政策課長）	<p>中村総務部副部長でございます。</p>
中村総務部副部長	<p>皆さん、こんにちは、中村です。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
司会（関口企画政策課長）	<p>企画政策課、山崎課長補佐です。</p>
山崎課長補佐	<p>山崎と申します。本年度もよろしくお願いいたします。</p>
司会（関口企画政策課長）	<p>続きまして、教育部の職員でございます。関根教育部長でございます。</p>
関根教育部長	<p>関根です。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
司会（関口企画政策課長）	<p>真田教育部副部長兼教育総務課長でございます。</p>
真田教育部副部長	<p>真田でございます。よろしくお願いいたします。</p>

司会（関口企画政策課長）	末田指導主事兼参事兼指導課長でございます。
末田指導課長	末田でございます。どうぞよろしくお願いいいたします。
司会（関口企画政策課長）	教育総務課、甲田係長でございます。
甲田教育総務課係長	甲田でございます。よろしくお願いいいたします。
司会（関口企画政策課長）	<p>そして、私、総務部企画政策課長の関口と申します。どうぞよろしくお願いいいたします。</p> <p>続きまして、皆様にご了解いただきたい点が幾つかございます。まず1つは、本会議の公開、傍聴、会議録の作成及び公表、会議録の作成のための録音につきまして、前回ご確認をさせていただいておりますけれども、今回もこれまでと同様の取り扱いをさせていただきたいと思っておりますので、皆様のご了解をお願いしたいと存じます。</p> <p>それでは、次に、会議録の署名する構成員につきまして、市長及び市長が指名する1名の構成員が署名するという事としておりますので、市長から1名の指名をお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願いいいたします。</p>
田中市長	<p>それでは、会議録に署名する構成員の関係でございますが、教育委員の名簿の順でお願いをしてきましたので、今回の会議録の署名は坪井さんをお願いをしたいと思っております。よろしくお願いいいたします。</p>
坪井委員	わかりました。
司会（関口企画政策課長）	ありがとうございます。それでは、本日の会議録の署名は、田中市長と坪井委員にお願いいいたします。よろしくお願いいいたします。

## 2 市長あいさつ

司会（関口企画政策課長）	<p>それでは、次第に基づき進めさせていただきます。</p> <p>初めに、田中市長からご挨拶をいただきたいと思っております。市長、お願いいいたします。</p>
田中市長	<p>皆さん、こんにちは。</p> <p>本日は、平成28年度第1回久喜市総合教育会議を招集申し上げましたとこ</p>

ろ、教育委員会の皆様にはお忙しい中、ご出席をいただき、誠にありがとうございます。また、日ごろ本市の教育行政の推進につきまして、その旨ご尽力を賜っておりますことに心から感謝を申し上げる次第でございます。

さて、昨年度設置いたしましたこの久喜市総合教育会議でございますけれども、これまで久喜市教育大綱の策定及び本市の教育について意見交換などを行って参りました。

昨年度については、6月に1回、それから11月に1度ということで2回開催をされたわけでございます。本日は、平成28年度の第1回ということになります。

お手元の次第にございます内容でございますけれども、この関係の(1)から(4)、その他まで協議、調整をお願いするわけでございますけれども、特に(2)の地域と学校のかかわりについて意見交換を兼ねておりますけれども、これは昨年の11月に開催されました第2回の会議におきまして提案をいただいた事項でございますので、ひとつこの関係につきましては、後ほど委員の皆様等のお考え、あるいは地域と学校とのかかわりに対する思いにつきまして率直なご意見をいただければというふうに存じておりますので、よろしく願い申し上げます。

さて、もう一点申し上げますと、ご心配いただいております東京理科大学久喜キャンパスの跡地利用でございます。本年の3月をもちまして久喜キャンパスから東京理科大学経営学部が神楽坂キャンパスに全面移転をいたしました。

既に学生、教職員ともども、あの地には一人にもおらないわけでございまして、何か突然のことに見まわれているという状況でございます。

この跡地の関係につきましては、ご案内のとおり、久喜キャンパスの敷地の約4割と校舎棟及び特別教室棟が理科大学から久喜市へ無償譲渡されることとなっておりますのでございます。

無償譲渡される建物の延べ床面積でございますけれども、およそ1万3,000平方メートルということでございまして、これは現在のこの本庁舎の約1.8倍の広さを持つものでございます。

さまざまな活用方法が考えられますことから、本年2月に庁舎内に検討組織を立ち上げ、活用方法についての検討を現在しておる状況でございます。

また、本年3月には市民の皆様からもアイデアを募集しておりますことから、大学を開放させていただいて、2日間にわたって市民の皆様方にも校舎をご覧いただいたわけでございます。また、その中でアイデアも募集ということを行っているわけでございます。また、大変多くのご意見をいただいております。

こうした中、いろんなアイデアがあるわけでございますけれども、ご案内のとおり、この敷地、施設につきましては、もともと4年制大学、高等教育機関ということで誘致をしてスタートしたものでございますので、これまでの検討

<p>司会（関口企画 政策課長）</p>	<p>結果などを、また市民の皆様方のご要望等々もいただく中で、総合的に勘案いたしましたして、この跡地につきましては教育センターを柱として配置をする。こういったことを中心に跡地の利用検討をしてほしいということを過日職員に指示をいたしました。</p> <p>今後はさらなる検討を重ね、全体の基本的な活用案について本年8月ごろを目途に施設全体の基本的な活用方法を固めてまいりたいと考えておるわけでございます。</p> <p>法的にもおおむね6月末、もう間もなくでございますけれども、もしくは7月上旬には久喜市のほうに権利が移動するということを前提に現在理科大学と協議を進めているところでございます。という状況でございますので、ご理解のほどをお願いに申し上げる次第でございます。</p> <p>それでは、本日は皆様から忌憚のないご意見を賜り、本会議が有意義なものとなりますことをお願い申し上げまして、開会に当たってのご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>司会 ありがとうございます。</p>
--------------------------	---

### 3 教育長あいさつ

<p>司会（関口企画 政策課長）</p> <p>柿沼教育長</p>	<p>続きまして、柿沼教育長よりご挨拶いただきたいと存じます。</p> <p>皆様、こんにちは。</p> <p>先般田中市長から、平成28年度第1回の久喜市総合教育会議の開催のご案内をいただきました。本日教育委員の皆様全員と出席させていただきました。</p> <p>田中市長におかれましては、日ごろより教育行政への深い理解とご支援をいただいておりますことに心から感謝を申し上げます。</p> <p>国では教育再生実行会議の提言のもとに急ピッチで教育改革が進められている一方、本市には本市独自の解決すべき課題、合併以後の課題も含め多々あるわけでありまして、それらの課題も着実に解決に向かい、さまざまな取り組みにも着手できている状況にございますが、その1つが市内小中学校の教室へのエアコン設置。これは、田中市長のNo.1宣言でもあり、また学校にとっては長年の悲願でもありました。しかも、周辺自治体ではいまだ整備がされていない、そういう状況の中、先月末に設置工事が完了し、今月より使用を開始したところでございます。本日改めて設置状況や運用方法などにつきまして説明をさせていただきます。</p> <p>また、本日の協議・調整事項の2つ目の地域と学校とのかかわりについては、今後の久喜市の教育の大きな方向づけになるものと受けとめております。そう</p>
---------------------------------------	---

<p>司会（関口企画 政策課長）</p>	<p>ということからも、田中市長と私ども教育委員会が課題を共有し、考えることは大変意義あるものというふうを受けとめております。</p> <p>先ほど東京理解大学の跡地利用につきまして、市長から教育センターを柱として検討している旨のお話がありました。</p> <p>この教育センターにつきまして、私ども教育関係者にとりましては、本当に長年の悲願といっても過言ではないわけでありまして、大変期待の大きいところでございます。</p> <p>結びになりますが、本日の教育総合会議が久喜市教育の針路を見出せる実り多きものとなりますことを期待し、教育委員会を代表しての挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。</p> <p>ありがとうございました。</p>
--------------------------	--

#### 4 協議・調整事項

<p>司会（関口企画 政策課長）</p>	<p>それでは、次第4、協議・調整事項でございますけれども、協議・調整事項に入る前に、配付資料の確認をさせていただきたいと思っております。</p> <p>それでは、事前に配付をさせていただいております平成28年度第1回久喜市総合教育会議の次第、資料1-1といたしまして、久喜市立小中学校空調設備整備事業概要、資料1-2といたしまして、久喜市立小・中学校エアコン運用ガイドライン、さらに本日机上に配付をさせていただいております久喜市教育大綱の修正提案、こちらになります。</p> <p>以上、次第を含めまして4点でございますが、不足等ございませんでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">〔「はい」と言う人あり〕</p>
<p>司会（関口企画 政策課長）</p>	<p>ありがとうございます。</p>

#### 4 協議・調整事項 （1）小中学校のエアコン設置について

<p>司会（関口企画 政策課長）</p>	<p>それでは、次第の4、協議・調整事項に入らせていただきます。</p> <p>久喜市総合教育会議運営用要綱第3条の規定に基づきまして、田中市長に議長をお願いいたします。なお、議長として会議を進行していただきますが、あわせて協議・調整にも加わっていただきたいと思います。</p> <p>それでは、田中市長、よろしく願いいたします。</p>
<p>田中議長</p>	<p>それでは、しばらくの間、私が議長として協議・調整を進めさせていただきます。よろしく願いをいたします。</p>

<p>真田教育部副 部長</p>	<p>まず、（１）、小中学校のエアコン設置についてでございます。 それでは、事務局より説明をお願いします。</p> <p>それでは、（１）の小中学校のエアコン設置につきまして、私のほうから説明をさせていただきます。着座にて失礼いたします。</p> <p>資料の１番でございます。久喜市立小中学校空調設備整備事業概要でございますが、こちらのほうをご覧いただきたいと存じます。</p> <p>市長の掲げるまちづくり重点施策「久喜 No. 1 宣言」におきまして、児童生徒の暑さ対策と学習効率の向上のための教育環境の整備といたしまして、平成26年度から準備を進めて参りました。市内全ての小中学校への空調設備の導入工事が5月中に完了いたしまして、6月から稼働を開始したところでございます。</p> <p>導入方式につきましては、10年間のリース方式により低価格で利用できる深夜電力を利用いたしまして、氷を蓄熱槽に蓄え、昼間に熱エネルギーとして活用する氷蓄熱方式、いわゆるエコアイス言われるものでございますが、そちらによる電気式エアコンとなっております。</p> <p>契約額につきましては、総額で18億6,673万2,480円でございます。 これは、10年間のリース代金となっております。</p> <p>受注者につきましては、NTTファイナンス株式会社関東支店でございます。</p> <p>設置台数につきましては、小学校615台、中学校373台、合計988台でございます。</p> <p>次のページになりますが、導入から稼働までの件につきましては、こちらの表のとおりとなっております。</p> <p>それから、エアコンの設置による効果といたしまして、児童生徒の暑さ対策としての健康面での配慮はもとより、夏場でも集中して授業が受けられる教育環境が確保できることとなりますことから、現場の教職員等の意見を聞きながら夏休み期間を8月31日から4日間短縮いたしまして、8月27日までとしております。</p> <p>また、進路指導や学年末に向けて教職員が何かと忙しい年末年始にかけて児童生徒の冬休み期間を2日間ふやしております。そのことによりまして、差し引き2日間授業ができる日を増やすことで、ゆとりある教育活動が図られるものと考えております。</p> <p>また、6月からの一斉稼働に当たりましては、各学校間で統一した認識により使用してもらえるように、久喜市立小・中学校エアコン運用ガイドラインを設けて対応しております。</p> <p>資料の1-2、こちらのほうをご覧いただきたいと思っております。1ページになりますが、ガイドライン設置の目的といたしまして、児童生徒の健康管理とあ</p>
----------------------	--

	<p>わせ、地球環境への配慮とバランスを保ちながら省エネルギーを意識した適正かつ効率的なエアコンの使用をしていただくために、ガイドラインを設置した旨を記載しております。</p> <p>2 ページになりますが、エアコンの使用に当たりましては、原則として使用期間を6月から9月までの間とし、使用の目安といたしまして、教室内の温度が30度以上の日に使用するものとしております。これは、文部科学省が定めております学校環境衛生基準において教室内の温度は30度以下が望ましいという基準をもとにしております。</p> <p>設定温度は28度とし、基本的に授業時間内での使用としております。天候の状況や、それから各学校の環境の状況に応じて校長の判断で使用できるものとしております。</p> <p>また、使用する際の注意事項といたしまして、児童生徒の体調管理や換気の励行、効率的な利用方法とあわせてまして節電、省エネルギーに心がけ地球環境への配慮、取り組みのお願いをしております。</p> <p>ガイドラインの作成に当たりましては、実際に使用する立場から学校長等の意見を聞きながら作成をしたところでございます。</p> <p>概要につきましては、以上でございます。</p>
田中議長	<p>ただいま事務局から小中学校のエアコン設置についての説明がございました。設置台数は、全部で988台、約18億6,600万円の説明がございました。いかがでしょうか。</p> <p>どうぞ鹿児島委員。</p>
鹿児島委員	<p>学校現場の願いであったエアコンの設置を市長の英断で全校に設置いただいたことに心から感謝申し上げたいと思います。ありがとうございます。</p> <p>設置に伴って教育委員会がこの冬期休業を2日ふやしたりとか、夏季休業を減らしたりとか、そういう工夫したこと大変ありがたいなと思っております。</p> <p>是非またこの夏終わったら、子どもの反応なども知りたいので、アンケートなどをとってもらえればありがたいなと思います。</p>
田中議長	<p>その件に関して事務局はいかがですか。</p>
真田教育部副部長	<p>実施してまいりたいと思います。</p>
田中議長	<p>ほかにいかがでしょうか。</p> <p>坪井委員。</p>

坪井委員	<p>エアコンの効果的な利用の中で、窓側のカーテン類の活用。緑のカーテンということがよく言われておりますけれども、学校では今既に取り組んでいる学校とかはどのぐらいあるのでしょうか。まだこれからでしょうか。</p>
田中議長	<p>緑のカーテン事業に取り組んでいる学校について、事務局からお願いします。</p>
末田指導課長	<p>指導課の末田でございます。着座にてお答えします。      緑のカーテンにつきましては、学校で、基本的にボランティアの方のお手伝いをいただきながら実施しております。ただ、全ての学校がその全ての教室にできている。役所のような形で完全にはできていないところがございます。ただ、緑のカーテンを活用しながら夏の暑さ対策は各学校で進めているところでございます。</p>
田中議長	<p>よろしいですか。</p>
坪井委員	<p>これからの協議の中にも学校と地域のかかわりとかありますので、できたらそういうところに地域の力が生かさせていけたらありがたいなと思っています。ただ、それにはそれぞれ条件がつくられ、緑のカーテンができるような状態にあるかどうかというところもありますので、これから学校の状況等を見ながら、地域の力を借りながら進めていけたらいいなと思っています。</p>
田中議長	<p>ありがとうございます。      ほかに。どうぞ榎本委員さん。</p>
榎本委員	<p>エアコン設置の件につきましては、誠にありがとうございました。      エアコンの稼働時間、あとは目安、スイッチの使用開始、終了の件ですけれども、開始が6月から9月、気温が30度以上、エアコンの使用時の温度は28度という大分厳しい条件になっているとは思いますが、校舎も学校によって向きが真南に向いているとか、教室によっては西に向いている教室もあると思うので、その辺を先ほど校長先生の判断という言葉もありましたけれども、折角設置したエアコンですので、初年度なので、そのあたりは柔軟に考えていただければと思います。      実はこの間の日曜日に小学校のお子さんと話す機会がありまして、「エアコンが入ってどうだった」と言ったら、「まだ2回しかスイッチ点けていないからわかんない」と言う。6月からと書いてあったので、随分省エネなんだなと思いました。      これから夏休み入る前と9月末までということで暑い時期にまたがってき</p>



	<p>ますので、これからが本格的にエアコンを使う時期になると思いますので、校長先生の判断もよろしいんですが、きちんとした対応をお願いしたいと思います。</p> <p>学年やクラスで、私のクラスは1時間目からエアコンが入っていたけれど、別のクラスは2時間目からエアコンが入った、もしくは入っていなかったとか、そういう不満も出てくるのではないかと思います。</p> <p>これは体感的なものなので、その辺のことも校長先生を初め、スイッチを入れることについて、先生方にも少し勉強していただければなと思います。</p> <p>よろしくをお願いします。</p>
真田教育部副部長	<p>ご指摘のとおり、今年から導入した関係もありますので、それぞれ使い方というのがまだ不慣れな点もあると思います。</p> <p>毎月校長会、教頭会のほうも実施をしておりますので、そういうところでお話を伺いながら使い方についてもお話ができればというふうに考えております。</p>
田中議長	はい、狩野委員どうぞ。
狩野委員	<p>過日学校訪問で太田小学校へ行きましたが、太田小学校は南側と北側と校舎があり、北側の校舎は低学年です。</p> <p>その日は、晴れてはいないのですが、とても湿気のある暑い日でした。</p> <p>最初北側の校舎へ行ったところ、まだエアコンのスイッチが入っていませんでしたが、これぐらいなら大丈夫かなと思いました。</p> <p>その後、南側の3階に上がったら6年生の教室ですけど、ここ廊下暑いなど思って教室入ったらエアコンのスイッチが入っており、とても快適な中で6年生が授業している様子を見ることができました。学校によってそういう使い方を知ることができました。</p> <p>さきほどもお話がありましたけども、カーテンがかかっているところとか、あるいは北側の校舎とかという場合は、稼働が少し少なくなり、あるいは暑いところは稼働が多くなるという、そういう使い方で効率的に使っているのかなというふうに受けとめました。これから少し様子を見ていきたいと思えます。</p>
田中議長	この関係はよろしいでしょうか。
	〔「はい」と言う人あり〕
田中議長	それでは、「小中学校のエアコン設置について」につきましては以上で終了

	させていただきます、次に参ります。
--	-------------------

4 協議・調整事項 (2) 地域と学校のかかわりについて (意見交換)

田中議長	<p>それでは、続きまして協議・調整事項の(2)、地域と学校のかかわりについて、意見交換というところでございます。この関係につきましては、冒頭の挨拶の中で述べさせていただきましたように、前回の会議におきまして提案があったものでございます。</p> <p>非常に幅広い表現になっておりますので、次回以降は内容を絞った形も考えられますが、本日は広い範囲でそれぞれの考えを述べていただければと思います。</p> <p>それでは、最初に鹿児島委員さん、いかがでしょうか。</p>
鹿児島委員	<p>地域と学校のかかわりということでございますが、戦後 70 年の間に社会環境が大きく変化し続けております。</p> <p>それから、人々の価値観も多様化してきました。それに伴って子どもも変化してきました。</p> <p>私の子どものころ、昭和 20 年で、市長も同じだと思いますが、そのころは子どもの遊びというのはガキ大将を中心になった異年齢集団で、そういう遊びでした。</p> <p>家庭では子どもは貴重な労働力でした。農繁期には、農繁休業というのがあり、なんと学校が休みになりました。</p> <p>そういうことで子どもたちはごく自然に家の手伝いをしながら、生活体験とか自然体験を経験して、そういうのが豊かになっていったわけでありまして。</p> <p>また、地域では地域の子どもは地域で育てるという感覚が当然のようにありました。何か悪いことをすると、隣の家の人に怒られ、地域の人に叱られたりしました。近所の親に自分の子と同じように叱られるという、そういう時代だったのです。今はちょっとそれ違います。</p> <p>今、子どもが遊ぶ時間もないし、遊ぶ相手もないし、遊ぶ場所もない、そういう状況です。</p> <p>私には、小学生の孫がいますが、孫が珍しく友達を呼びました。今は約束しないと遊びに来ません。その日は約束した友達が 3 人ほど遊びに来ました。</p> <p>私が見ていると、遊び始めましたが、居間でそれぞれゲーム機を持ってきてゲームやっています。</p> <p>外へ出ていかないで、みんなそれぞれがやっている。</p> <p>外で遊んだらどうだと私に言われて、出ていったのですが、何をして遊んでいいかわからないというような感じを受けました。子どもは変わってきたのだなと思いました。</p> <p>子どもは変わったのは社会が変わり、家庭が変わったからですが、家庭の教</p>

育力というのは指摘されて久しいわけですが、これが非常に大事なかなと思います。

教育を基本とした、安らぎの場、子どもにとっては、休養、安らぎの場、そして人間として生きることの見本を身につけて、社会生活の基礎を培うような教育の場であったはずですが、残念ながら、そのような家庭が本来持っていた機能が多くの家庭で、全部とは言いませんが、多く家庭で失われつつあるなど感じています。

特に学校に上がる前というか、幼稚園に上がる前、小学校に上がる前は、就学時前に身につけておくべきものとされていた、生活態度あるいは基本的行動様式が不十分なために、今、小学校の低学年で苦戦している学校もあります。

1年生が、なかなか先生の言うことが聞けないという実態もあります。

子どもというのは家庭で生まれて、学校で学び、地域で生きると言われていました。このようなことから、家庭と学校と地域、この3者のつながりが私は大事だと重めます。

一番大事なのは家庭の機能だと思います。なぜならば家庭は子どもたちにとって究極な居場所です。ところが、その基本的な機能がなかなか果たせない現実があります。

子どもの居場所づくりとして、放課後子ども教室、国の施策で始まったところですが、久喜市ではいち早く取り組んで、ゆうゆうプラザも成果を上げています。

全部の小学校に設置されておりますので、今日の参考資料にもありましたが、これを是非さらに深めていただきたいと思います。

久喜市はその成果を上げています。居場所づくりというのは、学校であったり、地域社会であったり、行政であったりします。

疑似機関としての居場所がありますが、いずれにしても基本的な機能が損失している家庭が多くなっている状況では、こういうふうな居場所を回復するための、方策が必要であると考えております。

これがまず1つです。

それから、地域と学校のかかわりで大事なことの2つは、学校は地域から信頼される学校づくりに努めて、学校と地域が連携、協働して子どもの教育に当たることが基本ですが、具体的にはコミュニティ・スクールの実施です。

パンフレットにも、コミュニティ・スクールは地域とともにある学校づくりのための有効なツール、いわゆる方策だと述べています。

久喜市では、教育長の指導のもとに来年度実施に向けて取り組んでいることを高く評価しています。

現在、埼玉県では新座と川口だけが取り組みを行っています。

これは、なぜ進まなかったかという、学校の先生の人事についての話があったので、それで腰が引けていました。

	<p>これをもっと緩やかな扱いとして、実際の報告では余りが厳しく出ていないようです。</p> <p>久喜市は、新座や川口に続いて三番手ということで、非常にありがたいなと思っています。</p> <p>是非、学校の校長先生方と連携をとって、そしてコミュニティ・スクールの効果的な方法、これを実施いただきたいなと思います。</p> <p>これがいわゆる地域と学校のかかわりについて、大事な方策の一つであると思います。</p> <p>もう一つ申し上げますと、3つ目になりますが、地域の人には、第3の大人になってほしいと思います。</p> <p>両親が第1の大人、第2は学校の先生とか、学校の教員やいわゆるスポーツ少年団です。</p> <p>狩野委員さんがやっている野球のスポーツ少年団でコーチやっている人といった方々が言えるのかなと思います。</p> <p>先ほども申し上げましたが、昔は近所のお店のおじさんをはじめ、多くの人が子どもに接していました。そういうところで日ごろから人々に接して、子どもはいろんなタイプの間人があるということを知ってきました。これからは是非、地域の人々が子どもたちに多く関われるようにして欲しいと思います。</p> <p>地域の人々がPTAに、学校、子どもと接点のない人は、PTAでいろんなバザーとかそういうのにも出ていただいて、そうするとそこで子どもと触れ合うことや、あるいは、学校応援団が考えられます。</p> <p>私も孫が行っている小学校の学校応援団で10年ほど学習支援やっていますが、そうすると、子どもが帰ってくる時に挨拶をしてくれます。</p> <p>「こんにちは」とか「さようなら」とか、そういう顔見知りになります。また、中学校行っても挨拶してくれます。</p> <p>小学校でそのかかわりがあると。是非そういう学校応援団のサポートでもいいと思いますが、地域の人に第3の大人になってほしいと思います。</p> <p>地域の人にもう既にやっている方はやっていますが、是非1回くらいしたらどうでしょうかということを、機会をとらえて教育委員会として声かけをしてみてもどうかと思います。</p> <p>以上です。</p>
田中議長	<p>大変ありがとうございました。一通りご意見を伺いたいと思います。</p> <p>では、坪井委員さん、いかがでしょうか。</p>
坪井委員	<p>私は、放課後子ども教室にかかわっている立場から、地域と学校のかかわりについて、お話ししてみたいと思います。</p> <p>久喜市の全小学校で放課後子ども教室が実施され、そのほかにもスポーツ少</p>

	<p>年団とか学校応援団等の活動が行われているということは、地域住民の中に子どもに深い愛情と関心を持っていてくださる方が大勢いるということだと思っています。</p> <p>ただ、いずれの活動も継続して事業を行っていく上で、課題も見えてきています。</p> <p>参加してくださる方が固定化しつつあり、その輪を広げていく必要があると感じております。</p> <p>そのため回覧とか知り合いへの声かけなども行っていますが、参加者の増加、あるいは若い方たちへの参加がなかなか図られていないというのが現状であります。</p> <p>現在小中学校では学校への関心を深めていただくため、学校だよりを回覧で情報発信をしておりますが、今後におきましても、その中に地域住民に是非参加してほしい行事などを掲載していただきまして、参加者の交流をなるべく多く持ちながら、理解を深め合いながら、日常活動への参加者の輪が広げられたらいいなと願っています。</p> <p>それを今後続けていけたら、もっともっと地域と学校のかかわりも広がっていくと考えております。</p> <p>以上です。</p>
田中議長	<p>ありがとうございました。</p> <p>今の学校だよりの活用の方法というお話がありました。地域とのかかわりの中で、そういう話が出たと思いますが、学校だよりというのは全戸配布されているのでしょうか。</p>
末田指導課長	<p>学校だよりにつきましては、保護者につきましては、全員にお渡ししていますが、各地域につきましては、区長さんを通して、回覧という形をとらせていただいている学校がほとんどだと思います。</p>
田中議長	<p>次に榎本委員さん、いかがでしょうか。</p>
榎本委員	<p>地域と学校のかかわりということで、1つ学校という表現と子どもたちという表現で、捉え方が違うという感じがしております。</p> <p>ただ、地域という言葉を比較的にかみ砕いて表現すると、保護者とか、あとボランティアを中心とした、高年の方になっていくのではないかと感じております。</p> <p>また、学校ということになりますと、校長先生を初め教職員の方も含めた教職員という機関として捉える場合と、学校を子ども、児童生徒という捉え方によっては違うと思います。</p>

地域と学校という教職員の方々との取り組みに関しては、地域の保護者をはじめ、ボランティアをやっていただいている方、推進事業をやっていらっしゃる方には、感謝の言葉を掛けていただいて、地域の方々が率先して非常に気持ちよく、自慢げに普段の生活の中で、学校にかかわっています。

ただ、今度は地域と子ども、小学生の児童、中学生の生徒ということになってきますと、僕は違うかなと思っております。

まずは学校では児童生徒のことを「さん」づけで呼ぶようになっていると思います。小学校1年生の子どもでも名字で何とかさんと呼んでいます。

しかし、ボランティアで来る、おじいちゃん、おばあちゃんは、何とかちゃん、何とか君という、「さん」ではほとんど呼ばない。

だから、子どもたちも「さん」で呼ばれたり、「ちゃん」で呼ばれたり。でも、「ちゃん」や「君」のほうがすごく親しみが湧くし、またその学校との違いというのを逆にいい意味で特色が出ているのかなという感じがして、すごくいいなと思っております。

特に運動会や体育祭に出ていますと、自分の孫ではないのですが、応援しているんですね。子どももそれに応えています。やはりふだんの放課後教室とかいろんなボランティアで毎日接しているので、すごくいい関係を結んでいるなと思っております。

今度は、年齢が上がって小学校高学年とか中学校になると、今度は生徒の興味のほうも変わってくるので、地域と今度は仮に中学生とのかかわりについては、地域の方々をちょっと煙たがるような、地域の人たちに隠れて何かをしたがるような年齢になると思います。

ここは是非中学生の子たちというのは、近い年齢の先輩達との意見交換が、かたい表現ですが、そういうことをもっと積極的にやってもらいたいと思います。

特に受験に関して。昔は、自分たちが中学校のときには、先輩が高校1年生でも来てくれました。

結構生々しい話を先生抜きで話をしたり、それにすごく興味があって、今でも印象に残っています。

是非そういう、同じ地域の中でも、保護者とかそういう年齢の離れた方以外にも、言葉であれですけど、1個上、2個上みたいな先輩が本自身近に、兄弟いる人はいいのですが、今あまり兄弟がいない人が多いので、できれば学校としても余り深く考えずに、そういう近い年齢の先輩を何人かでもいいので呼んでいただいて、それも一つの地域のかかわりかなということを考えているので、是非実施をしていただきたいと思います。

小中学生の受験以外の、例えばスマートフォンの画期的な受験に対しての使い方とか、親には教えられないような、スマートフォンは使い方によっては、本当すごく便利なツールだと思うので、そういう形での地域とのかかわり合い

	<p>というのも、今後市として考えていってみたいとはいかがかなと思っております。 以上です。</p>
田中議長	<p>ありがとうございました。 それでは、狩野委員さんお願いします。</p>
狩野委員	<p>鹿児島委員さんとちょっと同じ意見になってしまうのですが、地域と学校のかかわりについて、今現在はコミュニティ・スクールや放課後子ども教室など、地域と学校のかかわりはあると思いますが、その中に叱るということが含まれているのかなというように思うところがあります。</p> <p>私たちが小さいころは、見ず知らずの人に叱られることが当たり前のようにありましたけれども、今現在、本当は叱りたいけれど何をされるかわからない、この御時世に叱る人も少なくなっているのではないかなと思っています。</p> <p>学校教育の中でも保護者の顔色を伺いながら叱らなければならないし、それでは本気でぶつかれないのではないかなというふうに感じております。</p> <p>私も中学校、小学校と子どもがいますけれども、私は悪いことをしたら、もうどんどん、どんどん叱ってくれというタイプですけれども、中にはそうでもない、そうじゃない親もいるでしょうから、先生方もなかなかデリケートな対応になるとは思います。</p> <p>やはりそこで社会に出たときに、いいこと、悪いことの判断能力に欠ける部分も出てくるのではないかなと思います。</p> <p>私もスポーツやってきた人間なので、鹿児島先生と同じ意見で、やっぱりスポーツ少年団推しです。</p> <p>幅広い年齢の指導者がいますし、ボランティアとはいえ、みんな本気で子どもたちと向き合っ、本気で叱って、本気で喜んで、子どもたちの体力の向上はもちろんですけれども、それ以外の心を成長させてくれると思うのです。</p> <p>中には叱るではなく感情で怒る指導者もいるかもしれませんが、そんな指導者のごくわずかですし、排除もされていきます。</p> <p>こういうことを踏まえて先生方がスポーツ少年団の様子を見学するとか、またその逆ですね。スポーツ少年団の人たちが学校に訪問したり、コミュニケーションをとりながら、とにかくこのスポーツ少年団のよさを学校と連携しながら、もっともっと活用すべきではないかというふうに思っております。</p> <p>以上です。</p>
田中議長	<p>ありがとうございました。 それでは、教育長お願いします。</p>
柿沼教育長	<p>地域と学校とのかかわりについて、今ほど重要視される時代はないのかなと</p>

いうふうに思っているのですが、元来、公立学校の強みというのは、地域があることというふうに言われてきていますので、そういうところから学校と地域とのかかわりを、関係を強めていくということで、その必要性から3点考えました。

1つは学校から見た地域との関係の必要性ということ。

これは、今の議会、6月の定例市議会でも教員の多忙化という質問がありました。これは、本市だけではなくて、もう全国的ないろんな問題になっているわけですが、本市でも月平均小中学校の教員の超過勤務時間が、これは月平均ですけれど約60時間。土日を含めると、土日の部活動の時間が約30時間ですので、100時間近くなる先生もいます。

そういう状況ですけれども、何でこんなに今超過勤務時間が多くなったのかというのは、授業時間が増えたことが一番の原因です。これは、もういつも話をしています。

それともう一つは、本来の教員の業務以外の仕事が増えたこと。

一例ですけれども、保護者への対応というのも私が若いころは個々に対応するということは、ほとんど、よっぽど何かない限りはなかったのですが、今はもう三十数名クラスに子どもがいると、三十数名の親と対応しなければなりません。何かわからないことがあると、全部担任に1対1で質問してくる。

想像の部分もありますが、かつては学校のことで分からないがあると、近所の親同士で教えあっていたと思います。だから、わざわざ担任に聞くということはよっぽどのがなければ必要がなかったけども、今はもう何か持っていくものとか何でも質問です。その対応だけでも担任は大変です。

また、返事を返さなくてはならないので、そうすると親が帰ってくる時間まで待って連絡をする。そうするともう7時、8時になってしまうというのが、帰りが遅くなっている原因かなというふうに思っています。

そういう意味でもやはり地域のコミュニティというか、親同士の関係というか、そういうものを再構築していかないと、この問題は解決できないかなというふうに思っています。

それから、2つ目は、地域から見た学校のかかわりと、学校とのかかわりの必要性ですが、これは放課後子ども教室、あるいは学校からの通学路の見回り、あるいは図書ボランティアの方など、たくさん学校にかかわっていただいています。

今、1つの課題と思っているのは、やはり1方向で学校を支援していただいているのですが、学校には、この支援していただいている方々の声を聞く機会がないです。ですので、いろいろな意見や、中には不満もあると思います。

そういうものを聞く機会が実はあるようでないことが、課題ではないかというふうに思っております。

もう一つは、地域の方が学校を必要とする。



最近、地域の防災組織が防災訓練をやるのに学校をお使いになると、それはより効果的ではないかと思いました。これは、いろいろ連携をとらないとできないことですが、そういう意味でも地域の学校として、地域と学校の距離が近くなるということはあるのではないかと考えています。

それから、最後に3点目は、保護者のことですが、今特に問題であり、これからさらに問題になるのは、子どもの貧困というか、家庭の経済状況の問題だと思います。これが子どもの教育にやっぱり影響してくると思います。

現実には平成7年には6.6%ぐらいだった準要保護家庭が現在は16%になっています。本市はここまで行っていませんけども、やはりかなり多くなっているのが事実です。

それから、ひとり親家庭が多くなっていることです。さらに働かなければならない家庭も、両親が働いている家庭も多いわけですから、そうするとどうしても保護者が孤立している状況があります。

そうすると、全部それは担任なり、学校にということになってきます。

話が戻るのですが、そうした中で、やはり例えばスポーツ少年団の活動にも子どもは参加したいけども、親が参加させない。それは、やっぱり親がそれだけの余裕がないのか、考え方がいろいろあるからかもしれませんが、親同士の、あるいは保護者同士の、家庭同士のそういう関係がやっぱり希薄になっているということ、このことをやっぱり重視していかなければならないと思います。

今年度からコミュニティ・スクールを指定していましたが、このコミュニティ・スクールで話をしてもらうことが一つの方法かなというふうに思っています。

以上です。

田中議長

ありがとうございました。ただいま委員の皆様にご地域と学校のかかわりについてのテーマでお話をさせていただいたわけですが、私からも少しお話しさせていただきたいと思います。

私が小学校1年生のときの入学式の写真がありますが、昭和27年のころの入学ですから、かなりセピア色になっています。

その写真を見ますと、当時は子どもがたくさんいましたから、兄弟がいる家庭と一人っ子の家庭があったともいますが、入学式ですので一番きれいな服を着てきたと思うのですが、そのときに、それでもさほどきれいな洋服を着ていない子どももいます。

今の学校と地域の関係というのは、結局、家庭の問題というか、保護者の問題になってしまうと思います。

昔は、父親が授業参観に出たことなんかありませんでした。私の父親は、授業参観には、幼稚園から一回も来ませんでした。

母親がそれにかわって、熱心にそういったことがあれば来ていましたし、大

学の卒業式には参加すると言って、私の卒業式に参加しました。

当時は母親同士がもっと連携していたように思います。しょっちゅうクラスのPTAのお母さん方と連絡取り合っていたような気がいたします。

今の保護者同士、お仕事持っている人も多いと思いますが、その親を見ていて、お母さん方あるいは保護者同士のつき合いも、私たちの代の保護者のほうが、あるいは私が親であったPTAのころから比べて、つき合いが薄いのではないかなと思います。

本当に困ったことを相談できない、言えないのではないかなと思います。

貧困のお話が出ましたけれども、昔は格好見れば、貧困家庭かそうじゃないか分かりましたが、今見た目では分かりません。

私たちが小学生のころは、もう給食が始まる直前でしたから、昼休みになると、家に帰って食事をすると行って戻った生徒もいました。

今にして思えば、多分食べていなかったと思います。学校へ持ってくる弁当がない、あるいは友達と見せ合いするから、見せられないのです。

だから、家に帰って食べてくると言ったのですね。

貧困という問題があり、それで社会的にサポートする生徒がたくさんできたからということもあるのでしょうか、以前は格好を見れば、貧困か貧困じゃないかということはわかっていた時代でした。

現在は、貧困かどうかということは、陰に隠れてしまう怖さというのがあると思います。

突き詰めれば、地域と学校のかかわり合いというのが家庭の問題になってしまう気がいたします。ただ、最初、鹿児島先生から話いただいたように、久喜市の人においては放課後子ども教室については、本当に地域の方々にご熱心にサポートいただいて、大変いい事業をしていると思っております。

ただ、いろんな学校によってここへ来てちょっと格差がついてきたのかなという印象を持ちますが、私はたまにしか行かないので、余り断定的なことをいうのはやっている方に失礼かなと思いますけれども、そういった観点から見るといかがですか。学校間の格差、あるいは教室によっての違いはあるのでしょうか。

これは、逆に言うと、特色なのでしょうが、講座も教室によって差があるということもあると思いますが、説明をいただけますか。

末田指導課長

ただいま市長よりがご指摘されたとおり、学校によって状況が違うと思います。

この放課後子ども教室、平成17年当時は地域子ども教室ということで、国の緊急対策ということで3カ年の事業で始まったものです。

最初は、居場所づくりということでスタートしたわけですが、それと同時に豊かな体験活動を子どもたちに味わってもらいたいということで、平成

17年から久喜小学校で開校しまして、市内の全部の小学校に開校するに至ったわけですが、長いところは久喜小の12年目、そしてまだ1年、2年開校して間もないところ状況が違うと思います。

それと、最初に開校した久喜地区のほうでは、やはりそのときのこの事業に対する取り組みや意欲で、当時市民大学の卒業された方やいろんな地域の人材の方がいらっしゃいましたので、そういう方と一緒に作り上げていったという経緯がございます。

合併しまして、全市の小学校に23校に広めるということになったときに、久喜地区をまねて、設置されるということになりましたけれども、やはりそれぞれ地域によって学校応援団ということがかかわっていらっしゃる方が既にいたり、またこの放課後子ども教室というのがあるから、やっていこうとか、それぞれこのゆうゆうプラザに対する捉え方がやはり最初のころと違ってきます。

また近年で設置された学校についても、それぞれ地域性で違うものがあります。

そういう中で、ここで多くの方がかかわっている学校につきましても、やはりそのサポーターという形で、多くの方にかかわってもらうことがいいんだという形で事業を実施しているところもありますし、やはり地域の方で年間何回か講座ができればいいなということでやってもらっている地域もございます。

また、PTAが主体となってかかわっているところ、そして地域の今まで学校を応援していただいた方がかかわってくださっているところ。

そうしますと、保護者ですと、当然毎年変わりますので、新しい人材が入ってきますけれども、地域でとかそういう今までかかわっていただいた方がそのまま入っていただいた場合には、当然年数が経てば、その方たちがお年を召されて後継者がどうするというところで、それぞれ学校、地域によって実情が違います。

そういうことがございまして、これから先ほど教育長のほうからお話がありましたけれども、その学校において、例えばこの放課後子ども教室をどのように考えていくのかということやコミュニティ・スクール学校運営協議会のほうで真剣に考えていただいて、その地区にあった、是非この放課後子ども教室は財産ですから、これから充実したものにしていただければということを感じております。

以上です。

田中議長

これは、全国的にやっていることですか。

末田指導課長

はい、放課後子ども教室はそうです。

田中議長	現状はどうでしょうか。
柿沼教育長	現状は市町村によっては1校だけだとか、1カ所だけでやるとかということ は多いのですが、これを全小学校でやっているというところは、多分全国的に はほとんどないです。
鹿児島委員	珍しいです。
柿沼教育長	それだけ実際つくっていくのも難しいということです。
鹿児島委員	結構早目に先駆けて、久喜市は早くから取り組んでいました。 しかし、中だるみというか格差というか、違いがあるのではないかというお 話がありましたが、これは地域の人材による違いというものもあると思います。 あとは、そのやり方もあると思いますが、地域の協力してくれる人材がどう いう方がいらっしゃるか、どういう方が中心になるか、そういうのもあると思 います。 活動の質の違いとか量の違いとか両方あるわけなんですけども、やっぱり地 域の実態があるので、指導している人材による違いもあると思います。
柿沼教育長	サポーターや運営している方の中心は、久喜地区は40年近く続いている、 高齢者大学のOBの方です。 市民大学も20年を超えましたので、サポーターの数も多いので、それだけ 活動が盛んで、後からできたところは、まだまだそこまで活動日数も、講座の 数も増やせない状況にあると考えられます。
鹿児島委員	市民大学の修了者、卒業生も久喜地区以外はまだそんなに多くないですか。
柿沼教育長	そうですね。
田中議長	高齢者大学も市民大学も最近入学者数が減ってきており、このことは放課後 子ども教室の運営にもかかわってきます。
柿沼教育長	菖蒲地区とか鷲宮地区とか栗橋地区でも高齢者大学に入った方は、卒業した 方の多くがかかわっています。
坪井委員	そうですね。卒業待つて声かけています。
鹿児島委員	それが地域で活躍する契機になったら非常にいいと思います。

田中議長	<p>高齢者大学ができたころは、定員が 100 人だったのですが、いつも定員オーバーしてしまうので定員を 200 人にしたのです。</p> <p>しかし、今は年度の初めでも 100 人いかないのです。</p> <p>市民大学も、最初第 1 期生が 40 人でしたが、今は 1 桁になっています。</p> <p>でも、よくやっています。</p>
鹿児島委員	<p>本当にシステムがよくできています。</p>
柿沼教育長	<p>10 年たったところでは、65 歳で始めた人は 75 歳で、いつまでやらせるんだという方もいます。</p>
坪井委員	<p>少しでもローリングしていけるような形にもっていかないと、難しくなると思います。</p>
鹿児島委員	<p>どうしても活躍してくれる人に頼ってしまう部分はあります。</p>
田中議長	<p>子どもの笑顔見ると、本当にうれしいと聞きます。</p> <p>人材の確保の面で、菖蒲地区いかがですか。</p>
榎本委員	<p>サポーターの数が、子どもの人数より多いです。</p> <p>小林、栢間地区は、できたのが遅かったので、意外と待っていましたという状況です。</p> <p>菖蒲東小というのが 3 世代の人が少ない学校です。</p> <p>近くに住宅団地があるので、小林、栢間のような農村地区とはちょっと違う学校なので、鍵っ子みたいな子が多く、ボランティアのお年寄りの方に新鮮味を感じる子どもが多く、人懐っこいです。</p> <p>どこの地区でも、皆やっぱり本当に中心にある学校とちょっと離れているところにある学校では、結構家庭環境も違います。</p> <p>以前菖蒲でローズバーグからの受け入れをやっているときに、ローズバーグの子どもたちを、ホームステイさせるのに菖蒲中と菖蒲南中で人数を配分するのですが、菖蒲南中はホームステイ先がすぐに見つかります。</p> <p>菖蒲南中はもともと 3 世代同居の家庭が多く、孫の友達はいつでもみたいな空気があるので、決まるのが驚くほどに早いです。</p> <p>英語もしゃべれないので、こちらは泊まる部屋がないとか、躊躇する状況でした。</p> <p>菖蒲地区でもそういう地区性や特色があります。</p> <p>もちろん栗橋でも驚宮、どこでもそういうのがあると思います。</p>

田中議長	今年はローズバーグから来る年ですか。
柿沼教育長	来る年です。
田中議長	先ほどお話の中で、スポーツ少年団のお話が余り聞けなかったのですが、狩野さんはもう長いのですか。
狩野委員	もう長いですね。スポーツ少年団にも入っていましたし、指導者としてももう、6、7年はやっています。
田中議長	最近、子どもは減っていますか。
狩野委員	減っています。
田中議長	子どもが減っていることの影響はありますか。
狩野委員	やはりやるからには勝つということも、非常に大事なことになってくるのですが、勝つ喜びを子どもたちになかなか味あわせることができなくなってきています。 それは、どうしてかと言え、指導力もあるかもしれないですけども、やっぱり子どもがいないのです。 やはり子どもがいないことには競争もないですし、競争時代の中でやっぱり小学校のうちに覚えられるというのはどんどん上のステージに行くことによって身につけていることだと思います。それは、社会に出ても一緒だと思うので、小学校のうちからやっぱりライバルがいたほうが、子どもというのは成長できると思います。
田中議長	相手がない。
狩野委員	チームの中のライバルです。
柿沼教育長	子どもが入らないのです。
狩野委員	やはり教育長もおっしゃったように、子どもはやりたいけれど、親がどうしてもという子が結構いるのです。
田中議長	今スポーツ少年団に入っている率というのは、小学校ではどのぐらいになる

	のですか。
末田指導課長	細かいデータはないですけども、30%を切るということを以前に聞いたことがあります。
田中議長	もともとの分母が小さくなっています。
鹿児島委員	参加率も低いですし、子どもも入らないです。
榎本委員	菖蒲では、4つあった野球チームは1個になりました。
鹿児島委員	サッカーは11チームあるのですか。
狩野委員	はい。
鹿児島委員	サッカーの人数が一番多いのですね。
狩野委員	桜田方面がマンションもあって多いです。
田中議長	野球は子どもがいっぱいて、レギュラーになるのが大変だったなんていう時代もありました。
榎本委員	Aチーム、Bチームだった時代もあります。
鹿児島委員	団体数は野球が、一番多いですか。
柿沼教育長	そうです。
狩野委員	チームの数はあるけれども、人数が少ないのです。 レベル的には低くなってしまい、どうしても外に出たときに勝てないのです。
田中議長	勝てないと嫌になるからね。
榎本委員	野球で、例えばうちの子どものときには3、4年生からの加入だったけれども、今1年生ぐらいからです。
鹿児島委員	親としても、子どもが入ると、それにかかわっているいろいろやらなければなら

	ないのが、負担になっているということもあるのではないのでしょうか。
狩野委員	<p>スポーツ少年団としてもいろいろ考えています。当番をなくしたり、連れてくるだけでいいよというようにしています。</p> <p>しかしスポーツ少年団によっては、伝統というのもあるでしょうし、煩わしい部分もあると思います。</p>
鹿児島委員	でも、一旦入り込んじゃうと一生懸命ではないですか。
狩野委員	一生懸命です。
田中議長	<p>狩野委員には、指導など、一生懸命やっただいただいていると思います。</p> <p>私の子どももサッカーに行ったとき、もう年に2回ぐらいは遠征で当番が回ってきました。子どもが世話になっているからという頭あるから、そういうのも行きましたが、やっぱり親も少ないから負担に感じる面はあると思います。</p>
狩野委員	負担に感じているのは多々あると思います。
田中議長	だから、子どもがスポーツ少年団入ると言うと、親が反対すると聞いています。
坪井委員	お母さんがダメだっという子どもがいます。
田中議長	それは本当ですか。
坪井委員	そうです。お母さんがダメと言ったから入らないとかあります。
鹿児島委員	スポーツ少年団から直接、親に言う場面があってもいいと思います。また学校からも。
狩野委員	そう思います。
鹿児島委員	学校と離れているからね。
狩野委員	だから、学校と連携して取り組んでいくことも必要だと思います。
榎本委員	スポーツ少年団というのは小学生までですか。



狩野委員	中学校もあります。野球なんかは中学校のチームもあります。
榎本委員	シニアですか。
狩野委員	シニアではありません。
田中議長	スポーツ少年団の中にクラブ組織も入っているのでしょうか。
狩野委員	野球で1チーム、中学校の野球チームがクラブとしてスポーツ少年団に入っています。
榎本委員	大会に出場するときはどのように対応するのですか。
狩野委員	どこかに入れてもらうしかない状況です。
榎本委員	同じ中学校で部活の野球部と、このクラブの野球部に同時に入っている生徒もいるのですか。
狩野委員	います。
榎本委員	平日は、部活の野球部で、土日はクラブの野球部に参加しているということですか。
狩野委員	それはいないと思います。
榎本委員	それは、シニアの中学校の野球部で出ている問題と同じだと思います。
狩野委員	そうです。
田中議長	しかし、あと十年もしたら大変じゃないですか。
柿沼教育長	そうですね。
鹿兒島委員	このままだと、運動部もどんどん無くなって行って消滅してします。
田中議長	どうしたらいいと思いますか。
榎本委員	正直言ってコーチにお金を渡せばやると思います。スポーツ少年団でも参加

	費をとっていると思います。
狩野委員	団費があります。
田中議長	いくら位になるのですか。
狩野委員	月に1,000円から3,000円の間位です。
榎本委員	運営費です。
田中議長	商店街では月に300円です。
狩野委員	保険もありますので、そこまでは無理です。
鹿児島委員	孫もやっていたけど、結構ユニフォームなんかも高いです。
狩野委員	そうですね。でも、卒団していった子のお下がりも利用しています。
榎本委員	小学校でクラブ活動というのはないのですか。
柿沼教育長	埼玉にはありません。 県によっては、学校の先生が顧問になって、スポーツ少年団を学校がやっているところもあるのですが、それは止めたほうがいいです。
田中議長	先程の話にもありましたが、先生の仕事がまた増えてしまいます。
柿沼教育長	だから、そういうところは結構強いです。学校の先生がスポーツ少年団の監督やるともう強制的に見えてしまいます。
榎本委員	このスポーツ少年団で別枠の予算を取っていただいて、参加する費用、人たちを全員ただで入れて、全部支給して、コーチには日当を出せば参加する人も増えるのではないのでしょうか。
鹿児島委員	それで来るのもいいけれど、今の子どもたちは塾に行くのではないのでしょうか。
田中議長	親もスポーツ少年団なんか行かないで、英語の塾に行きなさいと。

坪井委員	そうです。勉強や塾に行きなさいと。
榎本委員	スポーツ少年団が午前中だったらどうですか。
鹿児島委員	そうすれば時間も大丈夫です。しかし今は大変忙しい時代です。母親がこういうことに魅力を感じてくれないのです。
狩野委員	スポーツも、やったらやったで楽しいと思います。 そこにも地域の輪が広がると思います。
鹿児島委員	そうですね。
榎本委員	あとは、野球やっけていてもたまにサッカーやると、一つの運動にやっぱり偏り過ぎることは、親は好きではないです。小学生のときなんて特に、才能なんて分かりませんので。
田中議長	サッカーで11チームということは、学校の半分しかないということですね。
狩野委員	そうです。
柿沼教育長	半分以下ですね。最近特にバドミントンが無くなっていて、4つになってしまいました。あれだけ熱心にやった久喜市にとっては、本当に大変な状況です。
田中議長	榎本さんはラグビー関係の指導をしているのですか。
榎本委員	やっていませんが、久喜市在住の20代後半の若い子たちが陳情をして埼玉のラグビー協会にお願いしたら、その理事の方がこの間来て、久喜市にラグビー教室を設立しました。
田中議長	これは、小学校のラグビーですか。
榎本委員	そうです。久喜市の運動会の一番小学校の開催が多かった5月21日の日曜日に開催しました。鷲宮のグラウンドで活動していますが、子どもが少なく、少しかわいそうな状況でした。
田中議長	いろんなお話を述べましたけれども、(2)につきましてはなかなか結論が出る内容ではございませんが、ご意見を伺い意見交換をさせていただきました。本日は以上で、よろしいでしょうか。

田中議長	<p style="text-align: center;">〔「はい」と言う人あり〕</p> <p>それでは、「地域と学校のかかわり」につきましては以上で終了させていただきますまして、次に参ります。</p>
------	--

#### 4 協議・調整事項 (3) 久喜市教育大綱について

<p>田中議長</p> <p>山崎課長補佐</p>	<p>田中議長 それでは、(3)の教育大綱について、お話を進めたいと思います。</p> <p>それでは、事務局から説明をお願いします。</p> <p>よろしいでしょうか。では、資料2のほうをご覧くださいと思います。教育大綱の修正についてご説明させていただきます。恐れ入りますが、着座にて説明をさせていただきます。</p> <p>改めまして、資料2、久喜市教育大綱になります。</p> <p>久喜市教育大綱につきましては、平成27年6月5日に開催しました平成27年度第1回の総合教育会議におきまして、協議、調整を行いまして、本市における教育大綱につきましては、平成25年の10月に決めました久喜市教育振興基本計画における基本理念、基本方針、基本目標の部分を教育大綱として位置づけたところでございます。</p> <p>現行の久喜市教育大綱では特に前文、こういった部分を定めておりませんので、今回前文として資料2のこの赤字、アンダーラインの部分になりますけれども、「少子高齢化やグローバル化の進展、絶え間ない技術革新などにより社会は大きく変化しています。このような時代だからこそ教育は重要性を増します。本市は江戸時代に設立された郷学「遷善館」以来、教育先進都市として歩んできた歴史があります。未来を担う子どもたちを初め、全ての市民が心豊かで郷土に誇りを持つ教育の充実を期し、久喜市教育大綱を定めました」を加えるものでございます。</p> <p>続きまして、資料2の裏面のほうをご覧くださいと思います。こちらにつきましては、基本目標の部分になります。</p> <p>こちらにつきまして、市長の公約であります「久喜 No. 1 宣言」に掲げる事業を加えるものでございます。</p> <p>具体的には、まず基本目標の3になります。信頼される学校づくりの推進、この部分に赤字で示した部分を加えまして「教職員の指導力の向上、家庭・地位との連携の強化、エアコン設置など教育環境の整備を推進するとともに、防犯カメラを設置し家庭や地域から信頼される安全な学校づくりに努めます」とするものでございます。</p> <p>次に、基本目標の7になります。</p>
---------------------------	--

田中議長	<p>生涯にわたるスポーツ・レクリエーション活動の充実の部分ですが、こちらに赤字の部分を加えまして、「地域のスポーツ・レクリエーション活動の拠点となる各種団体の活動を支援するとともに、市民が生涯にわたって心身とも健康活力に満ちた生活を営むため、市民マラソン大会の開催を初め、スポーツ・レクリエーションに親しむことができる環境づくりを推進します」とするものでございます。</p> <p>修正内容につきまして、事務局からの説明は以上となります。よろしく願いいたします。</p> <p>ただいま教育大綱について一部修正をとという説明がありましたが、この点ついていかがでしょうか。</p> <p>少し具体的なことを加えたほうがよろしいだろうという、事務局の説明でございました。</p> <p>具体的なエアコン設置とか、防犯カメラ、あるいは市民マラソン大会等々を加えております。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">〔「はい」と言う人あり〕</p>
田中議長	<p>それでは、そのように修正をさせていただきます。</p> <p>なお（２）地域と学校のかかわりについての関係でございます。</p> <p>地域と学校のかかわりについて、意見交換について、これからも継続してお話をしたいと思いますが、今日はいろんなお話聞いたわけでございます。</p> <p>次回につきましては、今の先導的などということでも太田小、久喜東小、太東中学校でコミュニティ・スクールについて実施しております。</p> <p>その関係の報告をいただいて、このコミュニティ・スクール今後はどうしたらいいか、どういうふうに扱っていくかということも議論したいなというふうに思います。</p> <p>次回については、地域と学校のかかわりについて特化した形で、コミュニティ・スクールの関係の議論を深めたいと思いますが、よろしいでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">〔「はい」と言う人あり〕</p>
田中議長	<p>では、そのようにさせていただきます。</p>

4 協議・調整事項 （４）その他

田中議長	<p>それでは、４、その他でございます。</p> <p>事務局から説明をお願いします。</p>
------	---

<p>山崎企画政策 課課長補佐</p>	<p>(4) その他になります。 本日特に事務局のほうからご連絡する事項等はございませんので、よろしく お願いいたします。</p>
<p>田中議長</p>	<p>委員の皆様方から、意見などがあれば、(1)、(3)の関係なく受け付け ますがいかがでしょうか。 それでは、特にないようでございますので、本日上程した調整が全て終了い たしました。これをもちまして、議長の任を解かせていただきます。ご協力あ りがとうございました。</p>

5 閉 会

<p>司会(関口企画 政策課長)</p>	<p>ありがとうございました。 それでは、次回の会議の開催でございますけれども、次回につきましては地 域と学校のかかわりについてということで、その中のコミュニティ・スクール につきまして特化して、ご協議のほうお願いしたいと思います。 なお、次回の日程につきましては、10月以降を予定しておりますので、時期 が参りましたら、改めて皆様のほうにご案内のほう差し上げたいと思いま すので、よろしくお願いいたします。 それでは、以上をもちまして、平成28年度第1回久喜市総合教育会議を終 了させていただきます。 長時間にわたり、ご協議等々いただきましてありがとうございました。お疲 れさまでございました。お気をつけてお帰りください。</p>
--------------------------	--

会議のてん末・概要に相違ないことを証明するためにここに署名する。(注)

平成28年7月29日

久喜市長 田中 暄二

久喜市教育委員 坪井 喜代子

(注) 特に署名等を要しない審議会等については、事務局名を記入する。